

ミカ書 7 : 1~7

ルカによる福音書 12 : 49~53

<驚きの御言葉>

今日の箇所は、イエスさまが語っておられるところの続きです。

イエスさまはこれまで、御自分の弟子たちに、「天の父があなたを養い守って下さるから、思い悩むな、恐れるな、神の国を求めなさい」と教えて下さいました。また、イエスさまが再び来られる世の終わりの日まで、「目を覚まして、用意を整えて待っていないさい」と語られました。

イエスさまに従っていく中で、弟子たち、そしてわたしたちが、思い悩んだり、つまずいたり、恐れたりすること。また目を覚ましていられずに、神さまを見つめることを止めて、目を閉じてしまい、神さまの救いの完成の時を待たなくなってしまうこと。そんなわたしたちの罪や弱さを、イエスさまはよく、とてもよく、ご存知なのです。そんなわたしたちを諭し、励まし、導く御言葉です。

しかし、今日の所は、なんだか急に突き放されたような気がするかも知れません。イエスさまは驚くべきことを言われました。

49節「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。」また、51節にはこうあります。「あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言うておくが、むしろ分裂だ。」

神の御子イエスさまが、まことの人となってこの世に来られたのは、この地上に火を投じるためだということです。しかも、分裂をもたらすために来られたのだと。

イエスさまは、人々に平和をもたらして下さる方なのではなかったのでしょうか。むしろ人々を分裂させる。分けてしまう。それは、どういうことなのでしょう。

<火>

イエスさまは弟子たちに、御自分がこれからこの地上に火を投じられる。そして、「その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか」と言われました。

既に燃えていたらと願っている。つまり、弟子たちにイエスさまが語られていたこの時、まだ地上に、その火は投じられていなかった、ということです。

しかし、その当時も、そして今も、わたしたちは地上に、あらゆる火、あらゆる炎が燃え盛っているのを見ていないのでしょうか。戦争の火。憎しみの火。怒りの火。妬みの火。人間の罪から発する火種は、いつも瞬く間に広がって、自分を燃やし、隣人を燃やし、この地上を燃やし尽くしていきます。

この人間の罪が燃え盛る火の中に、イエスさまは全く別の火を、神さまからの火を、投じるために来られた、と言っておられるのです。

神の火というのは、旧約聖書においては神さまが人の罪を裁かれることの表現の一つです。つまり、神さまが人々の罪をお裁きになる。罪人を火で焼き滅ぼされるのです。

イエスさまは、その神さまの火を、地上に投げ込むために来られた、というのです。

そうであるならば、誰が、この神の火に耐えられるでしょうか。神さまの裁きの火が降つたならば、このイエスさまが地上におられた 2000 年前に、既にすべての人は焼き尽くされてしまっているのではないのでしょうか。

<神の火で燃やされたのは>

ところがこの箇所、イエスさまはその後、こう言っておられるのです。

「しかし、わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。」

「それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう」とありますが、これは、苦しむのが辛いとか、恐ろしいとか、そういうことを言うておられるのではありません。

「それが終わるまで」というのは、「それが達成されるまで」という言葉です。達成される、完成される、成就される、ということです。そして、「苦しむ」という言葉は、「専念する」「駆り立てる」という意味もあります。つまりイエスさまは、地上に神の火を投じられる。そして、それが達成されるまで、完成されるまで、これからそのことに専念していかれるのだ、ということです。

何に専念していかれるかという、それは、「受けねばならない洗礼がある」と言うておられることです。

この洗礼は、ここの場面においては、あの水に浸される洗礼のことではありません。その洗礼は既に、イエスさまは洗礼者ヨハネから受けておられます。ここでは、イエスさまが、これから神の火を地上に投じるために達成しなければならないこと、つまり、十字架の死に至る受難の道を歩まれる、ということを示しています。

罪のない、神の御子イエスさまが、苦しみを受けられ、人々によって裁かれ、十字架に架けられる。このことによって、イエスさまは地上に、神の火を投じられるのです。

しかし、神の裁きが下されるのに、どうしてイエスさまが苦しまなければならないのでしょうか。どうしてイエスさまが、十字架に架けられて死ななければならないのでしょうか。

それは、まさに、わたしたち罪人こそが滅ぼされなければならない、神さまの裁きの火を、イエスさまが代わりに受けて下さるためです。イエスさまは、神さまの火によって、御自分が、弟子たち、わたしたちの罪を全て背負って、代わりに裁きを受けて、焼き滅ぼされるのだ、と言われたのです。

### <滅ぼす火>

神さまの火は、罪を焼き尽くします。罪人を滅ぼします。罪とは、神さまに造られた者であるわたしたちが、神さまを神とせず、自分を神のようにして歩むこと。神さまから離れて、自分の人生を自分で支配し、自分を主人として歩むことです。

しかし、命の造り主であり、わたしたちの命を支配し、守り、養っておられる神さまから離れて、わたしたちは生きることが出来るはずもありません。罪の行きつく先は、滅びなのです。この罪で、地上は満ちている。罪の炎が、地上で燃え盛っている。

そこにイエスさまは神さまの火を投じられ、この人の罪の炎を、神の炎で焼き尽くされるのです。人間の誰も、この神の火に、罪の裁きに耐えられません。

しかし神さまは、確かにわたしたちの罪に対して怒り、正しく裁きを行なわれますが、それにも勝って、造られたわたしたちを愛し、憐れみ、存在を惜しんで下さるといふのです。

そのために、わたしたちが滅びることを良しとせず、わたしが担うことの出来ない罪の重荷を、ご自分の御子イエスさまに負わせて、この方において裁きを行なわれたのです。

そこまでして神さまは、わたしたちが罪から立ち帰り、神さまの御許で歩むことを望んで下さったのです。御自分の御子の命を犠牲とするほどに、神さまはわたしたちを愛しておられるといふのです。

そして、イエスさまの十字架の死が成し遂げられた今や、わたしたちは、このイエスさまに示された神さまの愛を受け入れること。イエスさまの十字架の死が、わたしの罪のためであったと受け入れることで、罪の赦しを頂くことが出来るのです。もはや、裁きの苦しみを受ける必要はありません。それはイエスさまがご自分の十字架の苦しみと死によって、完全に達成し、終わらせて下さったからです。

聖書の箇所では、この時イエスさまは、こうして、これからご自分が苦しみと十字架の道を通して成し遂げられる、救いの御業を見つめて、弟子たちに語っておられたのです。

### <共に死に、共に生きる>

イエスさまの弟子になる。イエスさまを信じるとは、このわたしの代わりに罪の裁きを受けて下さった十字架のイエスさまを受け入れ、一つに結ばれるということです。わたしの苦しみと死を引き受けて下さった、わたしの代わりに裁きの炎に焼き滅ぼされて下さった、この方と結ばれるということです。

わたしたちは、イエスさまの十字架を見ます。神さまの裁きの火に焼かれ、わたしの代わりに滅んで下さったお方の前に立ちます。

このイエスさまを受け入れるなら、わたしたちは、このイエスさまの十字架と共に、古い自分が死ぬのです。罪の自分が滅ぼされるのです。

わたしたちはイエスさまの十字架の苦しみと死にあって、自分の罪の恐ろしさと、裁きの結果を見ます。しかし神さまは、イエスさまのこの苦しみにあって、死によって、あなたの

罪が滅ぼされたことを信じ、悔い改めるならば、それでよい。いやむしろ、そうして帰ってきなさい。罪を赦すから、あなたは滅びないで、神さまのもとで生きなさい。そう招いて下さっているのです。

#### <命の火>

そして、わたしたちは、イエスさまにあって、罪の自分が滅ぼされたなら、またそこに新しい、神さまと共に生きる命を与えられていきます。

神さまは、十字架で死なれたイエスさまを、死者の中から復活させて下さいました。イエスさまに結ばれて、古い自分が滅ぼされたわたしたちは、またイエスさまにあって、この復活の命に与ることが出来るのです。

わたしたちは、確かに地上の命を終え、いつか死んで、お墓に葬られます。しかし、それで終わりではありません。それは罪の結果の滅びの死ではありません。その滅びの死は、すでにイエスさまが代わりに死んで下さいました。裁きの火は、イエスさまが代わりに受け止めて下さいました。ですから、わたしたちの死は、もはやひと時の眠りのようなものと聖書は語ります。わたしたちはまたその死の中から、イエスさまが再び来られる日に、復活の命、永遠の命に与ることが出来るのです。

イエスさまが投じられた神の火は、そのように罪のわたしたちを滅ぼし、そして神の子として永遠に生かす。そのような火です。そしてその火は、イエスさまがわたしたちの代わりに受けて下さった苦しみと十字架の死によって、投じられたのです。

#### <分裂>

そうであるならば、今のわたしたちは、すでにこの神の火が投じられた地上を生きているということになります。もう、神の火、救いの炎は燃えています。イエスさまはすでに、このことを成し遂げて下さいました。

ですから、わたしたちはいつでも、今でも、イエスさまと一つになり、古い罪の自分を燃やされて、新しい命を生き始めることが出来るのです。救いの御業は、もう行われました。そして今、神さまはこの火の中へ、すべての人を招いておられるのです。

しかしそれが一方で、イエスさまが分裂をもたらす、と言っておられることに繋がります。

52 節以下にはこうありました。「今から後、一つの家五人いるならば、三人は二人と、二人は三人と対立して分かれるからである。父は子と、子は父と、／母は娘と、娘は母と、／しゅうとめは嫁と、嫁はしゅうとめと、／対立して分かれる。」

これは今日読まれた旧約聖書のミカ書から引用されている言葉です。家族内の分裂。悲しいことに、今の時代は珍しいことではなくなりましたが、当時のユダヤの人々にとって、家族の結びつきはとても強く、そこに分裂が起こる。もっとも信頼し、愛すべき者との間に分裂が起こる、というのは、最も悲惨なことのひとつでした。

しかしここでイエスさまは、御自分が投じられる神の火は、家族のつながりのように、人々の間で最も大切だと思われていることを、遙かに超えるものであると。神の火は、家族に分裂をもたらしてでも、あなたに受け入れる決断を迫るものだ、と言っておられるのです。

イエスさまは 51 節で「あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか」と問うておられました。

イエスさまは、確かにわたしたちに平和をもたらすために来られたお方です。ルカによる福音書 1 : 79 では、お生まれになるイエスさまのことを、「暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く」方であると語っていました。

ここで言われている、イエスさまがもたらして下さる平和とは、神さまと共にある平和のことです。罪を赦されて、神さまと和解し、神さまによる平安に与ることを「平和」と言っているのです。

しかし今日の箇所で言われているのは、イエスさまは、わたしたちが、地上で欲しいと思っている平和を与えるために来たのではない、ということです。

わたしたちが望む平和とは、それこそ家族や隣人と仲が良いこと、争いがないこと、心落ち着いて穏やかに過ごすこと、などかも知れません。

しかし、神の火が投じられることで、わたしたちは一人一人、このイエスさまに救われることを望むのか、あるいは拒むのか、どちらかの態度を取ることになります。イエスさまが来られ、手を差し伸べられたなら、この手を取るか、取らないか。わたしたちはそのどちらかをするようになるのです。

どうするかは、家族の中でも、分かれるかも知れません。それは特に、日本という国においては、多くのクリスチャンが経験していることかも知れません。洗礼を受けることを家族に反対される。お墓に入れないと言われる。家から出て行けと言われる。

イエスさまに従うことを選ぶことで、家族との分裂が起こることは、実際にあるのです。イエスさまに反発する人々の声が、従う者にも投げかけられてくるのです。

イエスさまは、御自分を受け入れ、従ってきた弟子たち、わたしたちが、その信仰のゆえに、様々な苦難を負わなければならないこと。たくさんの誘惑や、弱さや、迫害と戦わなければならないこと、分裂の痛みを経験することを、よくご存知でした。信仰を持って生きていく中で現実に起こって来る苦しみを、イエスさまは、ちゃんと見つめて下さっているのです。

#### <まことの平和>

その中で、イエスさまが教えて下さったことは、12 : 29~31 に語られていたことです。「あなたがたも、何を食べようか、何を飲もうかと考えてはならない。また、思い悩むな。それはみな、世の異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの父は、これらのものがあなたがたに必要なことをご存じである。ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのも

のは加えて与えられる」。

まず一番に、神の国を求める。神さまのご支配。神さまの救い。これが真っ先に求めるべきものであると、イエスさまは教えて下さいました。今日の箇所と言うなら、イエスさまに結ばれて、神の火に与って、罪を滅ぼされ、新しい命に生きなさい、ということです。

そして今、わたしたちがイエスさまに従い、そのことで目の前の平和を失ったとしても、それまで最も大切に思っていたものを手放すことになったとしても、神さまは、それを遥かに超える恵みを与え、神の平和に与らせて下さるのです。

ですから、弟子たち、わたしたちは、神の国の完成の時まで、終わりの日に至るまでの今の時を、しばし忍耐をして過ごさなければなりません。

しかし、その忍耐の力は、わたしたちの強い意志や、信念のようなものに掛かっているではありません。すべてをご存知の父なる神さまが、必要な力を与えて下さいます。聖霊なる神さまが守っていて下さいます。そして、ついには神さまのご支配がすべての者に及び、救いが完成します。復活の命に与り、神さまの御前に出て、イエスさまとこの目で見えます。

そしてイエスさまは言って下さいました。終わりの日に、わたしは再び来て、必ず救いを完成させる。そしてあなたたちをもてなし、天の食卓に迎える。だからあなたは、用意して待っていないさい。この約束が、わたしたちに希望を示し、忍耐する力を与えるのです。

今、教会は、イエスさまの苦難と十字架を覚える、受難節という時を歩んでいます。

罪を滅ぼし、また新しく生かす神の火を、わたしたちは十字架と復活のイエスさまを通してしっかり見つめたいと願います。そして、イエスさまを通して神の火を受け、罪赦され、新しく生かされ、イエスさまの後に従って、ひたすら神の国を求めて歩んで行きたいのです。

## 【お祈り】

天の父なる神さま

わたしたちの罪を裁く火を、あなたは御子イエスさまによって、この地上に投げられました。そして、罪による滅びの苦しみを、ただイエスさまお一人が背負って下さり、わたしたちにはこの方によって、ただ赦しが与えられました。感謝いたします。

悲しみも、苦しみも、死も、イエスさまによって克服され、神の火によって新しく生きる命を与えられたことを、固く信じさせて下さい。イエスさまの十字架の救いに、どうか聖霊によって与らせて下さい。そして復活の命の約束を、確かな希望として与えて下さい。

わたしたちの信仰の歩みは、この世にあっては多くの戦い、分裂、迫害、思い悩みをもたらします。しかし、わたしたちを髪の毛一本まで数え、慈しみ、愛して下さる神さまが、そのわたしたちの歩みをすべてご存知でいて下さり、必要を備え、導いて下さることを信じる者として下さい。あなたから、すべての慰めと、癒しと、救いが与えられます。ただ、神さまを求めて歩むことが出来ますように。

イエスさまの御名によって祈ります。アーメン